

PLAN NEWS

特集

国際ガールズ・デーに 考える世界の現状

登録終了したチャイルドのストーリー

私の人生に
大きな影響を与えた
プラン・スポンサーシップ
(グアテマラ・トーゴ)

ガールズ・プロジェクト
「早すぎる結婚」に
声を上げ始めたズン
(ベトナム)

国際ガールズ・デーに 考える世界の現状

～地球課題に向き合う女の子たち～

※1 ソマリア、ブルキナファソ、ハイチ、マリ、ナイジェリア、南スーダン、イエメン
 ※2 WFP. 2023. 'WFP Global Operational Response Plan: Update #7 - February 2023'.
<https://bit.ly/30I2rau> (accessed May 2023)

ハイチ
450万人

要因：不安と暴力の増大による
サプライチェーンの寸断、
降雨量の低下による不作、食料価格の高騰

マリ
180万人 (前年比41%増)

要因：紛争とそれに伴う避難、
政治・経済不安、干ばつ、洪水

南スーダン
770万人

要因：長引く紛争、気候変動の影響で頻
発する洪水や干ばつによる避難

2022年に急性食料不安(※)に直面
または直面すると推定された人数

※急性食料不安：十分な食料を摂取できないことで、その人の生命や生活が
差し迫った危険にさらされること
 プラン・インターナショナル「飢餓の向こう側 地球規模の食料危機における
ジェンダーの視点から見た影響」(2022)より編集

エチオピア
990万人

要因：干ばつの再発・長期化、それに
伴う暴力、避難、食料価格の高騰

中央サヘル

アフリカの角

ブルキナファソ
350万人 (前年比20%増)

要因：絶え間ない紛争や
社会不安による避難、
局地的な干ばつや不作による
食料価格の高騰

ニジェール
440万人 (前年比71%増)

要因：紛争の悪化とそれに伴う避難、
食料価格の高騰、
不規則で極端な降雨による不作

ケニア
440万人 (前年比84%増)

要因：長引く干ばつと食料価格の高騰

ソマリア
670万人

要因：長引く干ばつと食料価格の
高騰、絶え間ない紛争



気候変動・自然災害・紛争・難民
気候変動や自然災害、国内外の紛争などによる難民の増加や物価高騰などが食料不安を高めます

貧困・水と衛生の問題
避難生活などで生計を立てるのが難しくなったり、衛生環境の悪化により、感染症などが増加します

教育格差・児童労働・人身取引
家計を担うために働き出たり、家事や育児を手伝うなどで学校を中途退学せざるを得なくなります

人権・ジェンダー・不平等
特に社会的地位が低い女の子は、早すぎる結婚や、性暴力、人身取引などのリスクが高まります

世界は気候変動や自然災害、紛争や難民の増加など、さまざまな課題に直面しています。さらに現在は、過去最大の食料危機に直面していると言われていいます。世界食糧計画(WFP)は、世界中で3億4,500万人が深刻な食料不足に陥っており、「アフリカの角」と呼ばれる地域にあるソマリアや「中央サヘル地域」にあるマリ、ブルキナファソなどの7カ国において、85万人が飢餓状態にあると報告しています。

これらの地域では、紛争や社会不安のほか、気候変動により多発する干ばつや洪水で食料不足や水不足が引き起こされています。その結果、農地や家畜を失い、避難を余儀なくされるなど、生計手段の喪失に直面しています。そして、その影響を受けるのは、食事がとれず栄養不良に陥ったり、経済的な理由で教育を中断せざる得なくなる子どもたちです。そのなかでも特に女の子は、家計の負担を減らすために早すぎる結婚(児童婚)をさせられたり、水汲みに行く途中でジェンダーに基づく暴力や人身取引に巻き込まれたりするリスクに直面しています。

プラン・インターナショナルは、これまでもG7や国際会議の機会に各国首脳に対して食料危機への国際的な支援を求めてきたほか、こうした地域への緊急支援を行っています。具体的には食料支給、現金およびバウチャーによる支援、学校給食の提供、緊急下の教育、水・衛生サービスの整備、子どもの保護、栄養不良児の特定と栄養補給のほか、生計の確保のための支援活動などです。

次のページでは、中央サヘルとアフリカの角において、食料危機に直面している女の子と女性の声をご紹介します。

世界は気候変動や自然災害、紛争や難民の増加など、さまざまな課題に直面しています。さらに現在は、過去最大の食料危機に直面していると言われていいます。世界食糧計画(WFP)は、世界中で3億4,500万人が深刻な食料不足に陥っており、「アフリカの角」と呼ばれる地域にあるソマリアや「中央サヘル地域」にあるマリ、ブルキナファソなどの7カ国において、85万人が飢餓状態にあると報告しています。

これらの地域では、紛争や社会不安のほか、気候変動により多発する干ばつや洪水で食料不足や水不足が引き起こされています。その結果、農地や家畜を失い、避難を余儀なくされるなど、生計手段の喪失に直面しています。そして、その影響を受けるのは、食事がとれず栄養不良に陥ったり、経済的な理由で教育を中断せざる得なくなる子どもたちです。そのなかでも特に女の子は、家計の負担を減らすために早すぎる結婚(児童婚)をさせられたり、水汲みに行く途中でジェンダーに基づく暴力や人身取引に巻き込まれたりするリスクに直面しています。

国際ガールズ・デー2023

THINK FOR GIRLS ~地球課題に向き合う女の子たち

2023年の国際ガールズ・デーでは、自然災害や紛争、飢餓などにより国境を越えて移動する人々の姿を精力的に取材し続けている村山祐介氏をお迎えし、世界で何が起きているのか、その現状をご報

告いただきます。村山氏のジャーナリストとしての視点と、プランが発表している調査報告などを通じて、地球課題に向き合う女の子たちの現状を知り、私たちにできることをともに考えてみませんか。

EVENT オンラインでのご参加募集中!

ジャーナリスト村山祐介氏 取材報告

「クロスボーダー」~国境を越え移動を強いられる女の子たちの声

日時：2023年10月11日(水) 20:00-21:15(申込は当日17時まで)

場所：オンライン (Zoom)

申込はこちらから



村山祐介氏のメッセージ

世界は今、かつてないほど多くの人々が命がけの旅を強いられています。国連難民高等弁務官事務所によると、昨年未時点で故郷を追われた人は過去最多の1億840万人。その2割が18歳未満の女の子です。

私が取材で出会ったウクライナ避難民の多くも、母親やその手を握り締めた女の子たちでした。アフリカや中東から欧州へ向かうボートの転覆が相次ぐ地中海では、洋上を漂う子供の遺体を目にしました。「トランプの壁」がそびえるアメリカ南部国境への道のりでは、暴力から逃れたはずの中米の女性たちが性暴力の被害に遭っていました。その一方で、新天地で一歩を踏み出したり、意を決して故郷に残ったり、戻

たりする女性たちの姿もありました。

命がけの旅の途上の女の子たちの声をお伝えしながら、同じ時代に生きる私たちに何ができるのか、一緒に考える機会にできればと願っています。



欧州を目指した密航船が漂流し、地中海の洋上で救助される人々たち (2022年1月20日、村山祐介氏撮影)



村山祐介氏

ジャーナリスト。朝日新聞元記者。2009年からワシントン特派員として米政権の外交・安全保障、2012年からドバイ支局長として中東情勢を取材し、国内では経済産業省や外務省、首相官邸など政権取材を主に担当した。GLOBE編集部員、東京本社経済部次長(国際経済担当デスク)などを経て2020年3月に退社。米国に向かう移民の取材で、2018年の第34回ATP賞テレビグランプリのドキュメンタリー部門奨励賞、2019年度のポーン・上田記念国際記者賞を受賞した。https://murayamayusuke.com/

REPORT

世界ガールズ・レポートは「アクティビズム」がテーマ

アクティビズムとは、政治的、社会的な変革を起こすために取られる行動主義のことです。日本を含めた26カ国で調査を実施し、ジェンダー平等にむけて取り組んでいるユース女性の活動家800人以上がアンケートに参加しました。参加者の61%が、「行動によって期待していた効果が生まれている」とした一方、54%は資金不足が理由で活動を中断せざるを得なかったと回答しています。なかには、活動資金を得るためにクラウドファンディングに挑戦するなど、世界のユース女性の力強い取り組みが見えてきました。レポートは、10月上旬にプランのウェブサイトにて公開予定です。

※1 プランが国際ガールズ・デーに合わせて、世界の女の子の現状を報告するレポート

JEWELRY

国際ガールズ・デーに特別なジュエリーを販売

2018年以来、さまざまなチャリティ活動を通して、途上国の女性や子どもたちをご支援くださっているジュエリーブランドARTIDA OUD。毎年、国際ガールズ・デーによせて特別にデザインしたジュエリーを販売し、商品の売上の一部を寄付いただいています。今年はブランドで人気のデザインをピックアップし、ガールズ・デーをイメージしたピンク色の石をあしらったリングとピアスを限定で販売します。



「中央サヘル地域」

安心して過ごせる居場所がない女の子たち

中央サヘル対策プログラム・マネージャー マリー=ノエル・マフォン職員

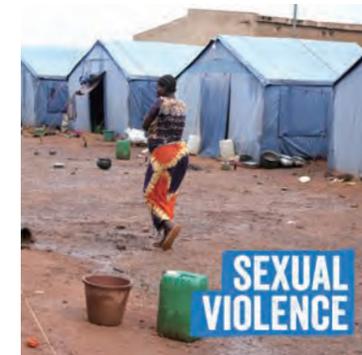
中央サヘル地域では、女の子たちが本当に安全だと感じられる空間はほとんどなく、家庭、学校、コミュニティ、難民キャンプで暴力のリスクが高まっています。暴力から逃れるために、彼女たちは家やコミュニティを離れ、より安全な場所を探さなければならないこともあります。また、学校や病院や仕事など外出が必要ながあっても、どうしても安全を確保できるかを常に考えなくてはなりません。場合によっては外出をあきらめることもあります。日常的に暴力の危険にさらされているのです。

中央サヘル地域は、2023年初めに約278万人の国内避難民が報告されています。その多くが女性や子どもです。この地域では当たり前前にジェンダー不平等があり、女性や女の子たちを保護する体制が整備されておらず、もともとジェンダーに基づく暴力が多くありました。それがさらに昨今の食料危機や紛争などにより人身取引やレイプなどのリスクが高まっています。



人身取引

ブルキナファソで仕事を紹介されましたが美容師の代わりに売春婦として働かなければなりませんでした。(17歳の女の子)



性暴力

レイプに遭うのは自己責任とされ、被害が増加しています。私たち避難民を守ってくれる人がいないのです。(国内避難民の女の子)

「アフリカの角」



出張してみたソマリアの現状

山本大記 職員

2023年6月にソマリアに出張し、国内避難民キャンプでは干ばつにより多くの方が、生まれ育った地を離れ、避難している様子を目の当たりにしました。ソマリアは家畜による経済が成り立っています。ラクダなど乾燥に強い家畜を所有している人々もいますが、多くは羊やヤギなど災害に弱い家畜で生計を立てています。キャンプでは一日一食もままならない家族や、学校に行けず困っている子どもたちの話を聞き、多角的な支援が求められると感じました。

アフリカ大陸東端の「アフリカの角」と呼ばれる地域では、相次ぐ雨季の降雨不足によって、過去40年間で最悪の干ばつに見舞われています。特に、主要産業が農業と畜産業であるソマリアでは、家畜の餌となる植物が育たず、家畜を失った人々などが国内避難民キャンプに身を寄せています。ソマリアの38歳の女性ホードさんには8人の子どもがいます。200頭の家畜を飼って生計を立てていましたが、干ばつで家畜がすべて死んでしまい、3年前に避難民キャンプに逃げてきました。しかし、キャンプに到着して間もなく5カ月の息子と1歳の娘を立て続けに亡くしました。食料不足による栄養不良が原因です。「ここには保健センターもないし、病院に行く

余裕ありませんでした。残り6人の子どもたちも満足に食事ができず、学校で出されるオートミールだけが1日の食事というところもあります。将来のことを考えると怖くなります。子どもたちに食べ物や教育、安全を与えることができたらと思います。何百万人ものソマリアの子どもたちが、十分な食事をとれていません。プランは、ホードさんのような家族に対して、現金給付と水の確保のための支援をしています。



登録終了したチャイルドのストーリー

私の人生に大きな影響を与えた プラン・スポンサーシップ

日本のプラン創立40周年を記念してストーリー動画を寄せてくれたのは、かつてプラン・スポンサーシップに参加していたチャイルドの皆さんです。今回は、グアテマラのヘレンさんと、トーゴのピチョロさんのストーリーをご紹介します。



プランのCEOとヘレンさん(右)

チャイルドだった私が、 憧れのプランの スタッフに

ヘレンさん/グアテマラ



幼少期のヘレンさん(左の赤い服の女の子)

チャイルドだった頃の私

子どもの頃、私の家族は定職をもたない父親の仕事にあわせて各地を転々としており、家計は苦しく不安定でした。9歳の時にたどり着いた小さな村がプラン・インターナショナルの活動地域で、私はそこでチャイルドとなりました。

私と交流したスポンサーはオランダの方でした。私と同じ年の娘さんがいるご夫婦で、ご家族の写真を受け取ったとき、娘さんの身長がとても高く驚いたのを覚えています。プランの活動では、子どもの権利に関するワークショップに参加しました。コミュニティ・リーダーが作った歌をみんなで歌い、「子どもの権利は平和な未来のために大切なものだ」という歌詞が印象的でした。

ヘレンさんとピチョロさんのストーリー動画

創立40周年記念サイトでご覧いただけます



奨学金を得て教師の道へ

当時からプランはさまざまな活動をしていましたが、私にとって一番重要だったのは、奨学金による教育のサポートでした。チャイルドとしての登録が終了するまで奨学金を受け、大学にも進学することができました。大学卒業後は、自分の暮らす村で小学校の教師として4年間働きましたが、いつかプランで働きたいという気持ちが大きくなっていきま

した。そして、教師を辞めてプランの採用試験を受け、プランの活動地域の

ファシリテーターとして働き始めたのです。その後、グアテマラ国内のさまざまな地域で働きながら、社会福祉の修士号を取りました。

グアテマラの子どもたちに より豊かな人生を

現在は、グアテマラにおけるプラン・スポンサーシップの責任者であると同時に、グアテマラの女の子のスポンサーにもなりました。チャイルドだった私が、支援する側になりプランのスタッフとなることができました。

私がチャイルドだった頃と比べると、プランの支援内容も変わってきています。当時は、水や衛生などのインフラ整備が主でしたが、現在は子どもたちの参加を促すワークショップや、若者の起業をサポートするプロジェクトも増えています。また、プランの働きかけで農村部にも中学校ができるなど、着実に変化がもたらされています。

しかしながら、グアテマラの女の子たちは、自分たちの権利を実現するうえで、いまだに多くの課題に直面しています。プランは、引き続き女の子の教育支援に注力し、より豊かな人生を歩むことができるよう、活動を続けていきます。

父となった今も、 忘れられない日本のスポンサー ピチョロさん/トーゴ

プランのおかげ で学業を継続

私は小さい頃に父親を亡くし、母親が農作業をして生計を立て、一人で育ててくれました。生活は苦しく、母親はとても苦労したと思います。その頃のプランは、特に孤児や脆弱な環境下にある子ども

もの支援をしていたことから、私をチャイルドに選んだようです。

プランは私の村に学校を建て、井戸を掘り、教員を養成するとともに、女の子のサッカーチームを作ってく



自宅近くで撮影に応じたピチョロさん

日本人のスポンサーとの 思い出

私のスポンサーは日本人のコンニさんという方でした。彼女は私にたくさんの手紙や、自分や家族の写真を送ってくれましたし、日本についていろいろなことを教えてくださいました。彼女は私に会いにトーゴに来ると約束してくれましたが、それが実現する前に私は18歳となりました。実際に会えることはありませんでした。実際にお会いすることはできませんでしたが、この場を借りて、コンニさんに感謝を伝えたいです。

プランは、チャイルドやその家族の人生に多大なる変化をもたらしています。日本の皆さま、どうかチャイルドたちやトーゴの子どもたちを応援し続けてください！

illustration by Noriyuki Goto



ベトナム 自分のような経験をしてほしくない 「早すぎる結婚」に声を上げ始めたズン

ベトナムでは、農村地域の少数民族で早すぎる結婚（児童婚）の割合が高く、例えばモン族の場合、53.4%の女の子が18歳未満で結婚しています。このプロジェクトでは、早すぎる結婚の弊害や女の子に差別的な社会規範に気づき、意識と行動を変えることを目標としています。プロジェクトに参加した教師と生徒のストーリーをご紹介します。



ま た、ムアはかつての教え子、ズンに再会しました。ズンは、「チャンピオン・オブ・チェンジクラブ」の中心的なメンバーとして活動していました。早すぎる結婚の弊害についても理解していましたが、父親が結納金を受け取ってしまったこと、さらに妊娠が発覚したことから、途中で学校をやめて夫の実家で家事や育児に専念していました。

中 学校で教師をつとめるムアは、モン族の女の子たちが結婚を理由に学校を中途退学してしまうことを問題に感じていました。プランのプロジェクトに参加して、「10代で結婚するのが当たり前」と家族が思い込んでいた、経済的な厳しさから早く結婚させたい・結納金をもらいたいなど、家庭内に原因がある場合が多いことを知りました。



ム アは、プランとともに学校でクイズや劇などを通じて、早すぎる結婚によってどんなことが起こりえるかを子どもたちに伝えるとともに、家庭訪問を開始しました。そして、14歳の女の子が、結婚の予定があることを知り、ムアは彼女の両親を説得するとともに、女の子には「チャンピオン・オブ・チェンジクラブ」*と一緒に活動しないかと声をかけ、女の子の早すぎる結婚を止めることができました。

*プランが主導し、学校や地域でジェンダー平等の啓発活動を行う若者のグループ



ズ ンは、ムアに15歳で結婚・出産したことへの後悔を語りはじめました。子宮や骨盤が十分に発達していない状態での出産はとても辛いものだったこと、さらに15歳の出産は違法になるため出生証明書を取得できず、子どもを病院に連れて行けないこと。「私のような思いは誰にもしてほしくない。このことを他の子どもたちに伝えていきたいです」とズンは熱心に語りました。

ム アは、ズンの義父母を説得し、ズンが子連れでクラブに参加できるようにしたほか、プランが実施する生計向上トレーニングを紹介しました。食品加工のトレーニングを受けたズンは、バナナチップを製造しオンラインで販売することができるようになりました。ズンが家計を助けるようになると、義父母も協力的になりました。ズンは他の子どもたちにも「結婚は、自分の意志で人生を選択できる大人になってからするべきです。教育をあきらめず、自分の未来は自分で決めてほしい」と伝え続けています。



ガールズ・プロジェクトのご支援をお願いいたします

- 女の子の未来を奪う

「早すぎる結婚の防止」プロジェクト

このプロジェクトは、外務省(NGO連携無償資金協力)の支援のもと実施しています。



詳細はウェブサイトをご覧ください

多様なトレーニングを通じた意識変革

解説：プログラム部 石丸晴菜職員



「早すぎる結婚の防止」プロジェクトでは、女の子だけでなく地域住民に対しても意識啓発やジェンダー平等トレーニングを実施することによって、当たり前とされてきた意識と行動を変えることを目指しています。実際に、早すぎる結婚を取りやめた例も増えてきました。また、経済的な理由で早すぎる結婚を勧められな

いよう、生計向上トレーニングも実施しています。ズンのように、バナナチップや豆腐、蜂蜜などの食品加工を通じて生計を立て始めた女の子たちも増えていきます。女の子たちが意識を変え、経済的に自立し、自らの意志で人生を選択できるようになる過程を目の当たりにし、このプロジェクトの意義を実感しています。

「We Are The World」で気づかされた 支援に参加することの大切さ

支援のさまざまなカタチ

一口100万円
プロジェクト

Vol.7

複数の方々と一緒に支援

中学一年生のとき、学校の先生に「We Are The World」のメイキングビデオを見せてもらったことが、私の寄付活動の原点です。マイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが共同で書いた歌詞を忘れることはできません。特に「We're saving their lives」「(彼らの命を守ろう)ではなく、We're saving our own lives」(僕たちの命を守ろう)は、特に忘れることのできない思い出深いフレーズです。メイキングビデオの最後に、「ポール・サイモンが登場して、「早く参加しないと、悲劇の傍観者になってしまうよ」と言っていたことも印象的でした。その言葉も心

「We Are The World」に
感銘を受けし



プラン・スポンサーシップや「一口100万円プロジェクト」を通して、15年以上支援くださっている弁護士のHさん



2021年のベトナムの「少数民族の子どもたちの教育支援プロジェクト」より。建設された寄宿舎の、キッチン兼食堂での食事風景



2019年のタンザニアの「小学校の環境整備プロジェクト」より。完成した教室で笑顔を見せる子どもたち

動くようになってからは、自分のできる範囲で寄付を行ってきました。プラン・インターナショナルのお付き合いは、2008年にインドネシアの植

安心して寄付を続けられる
財務の透明性と信頼性

に強く響きました。当時、アフリカの飢餓の問題は遠い存在でしたが、アメリカを代表する大好きなアーティストたちが一堂に会してその解決にむけて行動している姿を目の当たりにして、私にも何かできるかもしれないと感じました。

林プロジェクトに寄付したのが始まりです。2010年には娘が生まれたこともあり、女の子の貧困等を解決しようとするプランの広告が何かを見て、プランへの支援が主になりました。プラン・スポンサーシップではネパール、パキスタン、ミャンマーのチャイルドと交流しました。また、一口100万円プロジェクトでは2019年にタンザニアで実施した「小学校の環境整備プロジェクト」などに複数回の寄付をしています。プランは活動報告も財務諸表もきちんと作成されているので、

無駄遣いをするよりも
分けあう喜びを

安心して寄付を続けられます。自分の目で見ることができかどうかは分かりませんが、支援した子どもたちが、いつか世界のリーダーになれば素晴らしいことだと思っています。

私にとって寄付は、自分のできる唯一の作業です。例えば、自分が現地に行って手足を動かしても、余り役に立ちそうにありません。そうであれば、自分ができることは何かと考えた時に、働いて寄付をすることで現地の活動に貢献することができるといわけです。私は「あなたが生まれたとき、周りの人は笑って、あなたは泣いていたでしょう。だからあなたが死ぬときは、あなたが笑って、周りの人が泣くような人生を送りなさい」というネイティブアメリカンの格言が好きなのですが、死ぬときにどうしたら笑っているだろうかと思ったら、私の場合、それは無駄遣いをするのではなく、貧困などに苦しむ人ことなのかもしれません。

株式会社大林組

マッチングギフトプログラムで 小さな行動が大きな変化に

若手社員たちの
社会貢献参加を促進

大林組は、1892年に創業した総合建設会社です。国内建設事業から海外建設事業、グリーンエネルギー事業まで幅広い事業を展開しています。企業理念で「持続可能な社会の実現への貢献」を掲げ、長期ビジョン「Obayashi Sustainability Vision 2050」の実現のため、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。そのひとつとして、2014年に、社員有志の寄付金に会社も同額を上乘せし寄付するマッチングギフトプログラムを導入しました。社員が寄付先を決めて会社に申請す



左からコーポレート・コミュニケーション室 栗原礼子さん、堺雄一郎さん、湯本徹郎さん

るサポート型と、給与天引きされた寄付金に会社が同額を上乘せし寄付先を決めるファンド型の2つの方法があります。ファンド型の寄付先は弊社の社会貢献基本方針の「地球環境」「被災地支援」「地球環境」「社会貢献」分野で活動する団体から選定します。2022年度は計18団体に合計2600万円を寄付しました。

新人社員研修で寄付制度について説明するなど、社内での認知度の普及にも力を入れていま

顔が見える支援に
多くの社員が共感

マッチングギフトプログラムを活用して、プラン・インターナショナルの「ネパールにおける教育プロジェクト」に参加しました。弊社の社会貢献基本方針は「グローバルな視点で経営

す。幸いなことに社会貢献意識が高い社員が多いのですが、支援を持続可能なものにするためにも、若手社員の積極的な参加を促進したいと考えています。



すべり台で遊ぶネパールの子どもたち



プロジェクトで整備した教室の壁には、ネパール語や英語などの学習コーナーを設置

資源を活かした社会貢献活動を「推進」という考えを掲げており、プランが世界75カ国以上で活動しているところに魅力を感じました。プランは寄付金がどのように使われているのか、結果を分かりやすく伝えているところも素晴らしいと思います。この取り組みにより、社員への説明責任をしっかりと果たすことができます。

「ネパールにおける教育プロジェクト」では、子どもたちが安心して学べる学習環境づくりを目指して、女の子たちの月経衛生管理の知識向上やジェンダー平等の理解促進に加えて、教室やトイレの整備が行われました。このようなインフラの整備は弊社の事業と関連性が高く、また、子どもたちの顔が見える支援、という点でも、社員たちの関心を高めています。

プランはいろいろな支援プログラムを提供しているので、個人としても企業としても応援しやすいです。弊社はネパールのプロジェクトで一緒に活動できたことを誇りに思っています。ぜひ活動を続けていただき、これからも応援したいです。

中高生向けジェンダー冊子のご紹介

日本は世界的にみてもジェンダー・ギャップが大きい国です。世界経済フォーラムが発表した2023年の「ジェンダーギャップ指数」では、対象146カ国中125位と、過去最低の結果でした。多くのジェンダー課題を抱えているにも関わらず、子どもたちがジェンダー平等について学ぶ機会が非常に限られています。

こうした背景から、プランは日本の中高生がジェンダーについて学ぶことができるように「ジェンダー平等ってなに?」という冊子を中高生やユース、学校の先生の協力を得て制作しました。プランが日本の高校生を対象に行ったジェンダーに関する調査結果をもとに、中高生にとって身近な問題を漫画で表したり、日本社会のみならず、世界のジェンダー課題や取り組みについても紹介しています。

ジェンダーについて学びたい中高生のほか、SDGsの目標としても掲げられている「ジェンダー平等」について子どもに教えたい保

護者の皆さま、先生方など、ご関心のある方は、プランのウェブサイトからダウンロードしてお使いください。



漫画やイラストで分かりやすい内容



冊子のダウンロードはこちら

ウクライナ避難民の日本での生活状況をレポート

2022年12月にプラン・インターナショナルに入局した、ウクライナ避難民のアンナ・シャルホロドウスカー職員は、入局以来、日本ではなじみがないウクライナの歴史や教育システムなどに関するレポート作成などを進めています。

紛争以来日本に避難してきたウクライナ避難民のうち、若い女性や、子どもをもつ女性を対象にしたアンケート調査とインタビューを実施、8月にレポートを公開しました。

レポートでは、ウクライナ避難民の人々が、日本での生活に概ね満足しているものの、交通費節約のために外出を控えたり、子どもの教育問題について悩んだりしていることが分かりました。例えば、回答者の約半数の子どもたちは日本の学校で学んでいるものの、言葉の問題をはじめ、さまざまな困難を抱える一方、ウクライナの学校のリモート学習を続けている子どもたちは、時差や学力低下の問



レポートはこちら

アンナ・シャルホロドウスカー職員



題に直面していることが分かりました。レポートには6人へのインタビューも掲載されています。

私が夢に近づけたように 若者のエンパワーメントに貢献したい

今回は、P8-9でご紹介した「早すぎる結婚の防止」プロジェクト（ベトナム）を担当する石丸職員の仕事を紹介します。2021年からベトナムに駐在している石丸職員は、ハノイをベースに活動地域のハザン省やライチャウ省にたびたび出張してプロジェクトの管理・運営にあたっています。

私 がプラン・インターナショナルを知ったのは16歳の夏、高校にむかう電車の中でした。ふと目にした広告から、途上国では15歳の女の子が結婚や妊娠を経験していることを知りました。自分は友だちと毎日楽しく学校に通っているのに、世界では同世代の女の子が自分には想像できない経験をしていることを知り、「これからはこの現状をいつか変えるために勉強をしよう」と覚悟を決めました。それから約13年。ご縁があったプランに入局し、現在はベトナムに駐在して「早すぎる結婚の防止」プロジェクトを担当しています。

学生時代はキャリアに迷うこともありましたが、恩師のアドバイスやプランでのインターン経験などが現在につながっていると思います。ベトナムに駐在してからは、ベトナム語の習得や現地の生活に馴染むことに苦戦しつつ、問題意識の高い現地スタッフからも刺激を受けて活動に取り組んでいます。

プロジェクトから学ぶことも多いです。「女の子は早く結婚するのが当たり前」という地域の意識を変えることは簡単ではありません。でも、女の子たちから「トレーニングに参加して、自信がついた」「自分は早すぎる結婚をってしまったけ

ベトナムに駐在する石丸職員



今回紹介する人
プログラム部 石丸晴菜 職員

ど、子どもには同じ思いを絶対にさせない」という声を多く聞くようになり、活動の成果を感じています。高校生の頃の自分の夢に近づいていることを実感するとともに、今後はさらに若者のエンパワーメントに注力していきたいと思っています。

石丸職員のある一日 (活動地域への出張時の1日)

5:30-6:30	6:30-7:30	7:30-8:30	8:30-11:30
起床。出発準備をして朝食をとる	ホテルから活動地域まで車で移動。活動地域は高地が多いので霧が深い日もあります	活動地域のスタッフと打ち合わせ	現地行政やパートナー団体などが参加する会合に出席
11:30-13:30	13:30-15:00	15:00-16:00	
同僚とランチタイム。この日のメニューはネギスープ、蒸し野菜、鶏足煮込み、厚揚げ豆腐とトマトの炒め物	建設施設の視察。施設を活用しているユースクラブの活動に参加	活動参加者へインタビュー。プロジェクトにどのような成果を感じているか、改善点などを聞き取ります	
16:00-17:30	17:30-18:30	18:30-21:00	21:00-22:30
バナナチップスを生産している若者の工房を訪問。バナナチップスはオンラインでも販売しており、売れ行き好調です	プランの事務所で振り返りや写真の整理、報告書の作成	活動地域のスタッフと一緒に夕食。	ホテルに戻り、翌日の準備をし、シャワーを浴びて就寝

「ギフト・オブ・ホープ」へのご参加をありがとうございました!



「起業キット」として贈られた製造機



実際に販売しているバナナチップス

2022年度の年次報告書に同封していた「ギフト・オブ・ホープ〜子どもたちにクリスマスプレゼント・お年玉を贈ろう」。今回も多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

ベトナムへのギフト「起業キット」では、食品加工トレーニングを修了した少数民族の若者たちにバナナチップス製造機が贈られました。P8-9のガールズ・プロジェクトでもご紹介していますが、生計向上プロジェクトに活用していま

す。女性が生計を立てるといふことのイメージが湧かなかった若者たちも、実際にバナナチップスの製造・販売の技術を身に付け、地域に好ましい変化をもたらしていることを体感しています。今では「バナナチップスといえば、プラン・インターナショナル」と地域の人たちに認識してもらえるほどの人気商品に成長しています。

2023年度のギフト・オブ・ホープは12月発行の年次報告書でご案内予定です。

プラン・スポンサーシップをご支援してくださっている皆さまへ 期間限定でチャイルドへのギフトを受け付けます

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止していたチャイルドへのギフトを、期間限定でお受けします。今後はお預かりできるギフトが変わります。詳細はウェブサイトをご確認ください。



詳細はこちら

期間	2023年11月1日～11月15日(消印有効)	【注意事項】 ・左記以外のギフトは、現地送付ができません。個別のご連絡とご返却はできません。 ・手紙の添付はできません。日本事務局から簡易メッセージを付けて送付します。 ・ギフトの受付を一時的、あるいは恒常的に中止している国があります。ウェブサイトでご確認ください。
内容	ハンカチ、シールやステッカー、ペンや鉛筆などの筆記用具、折り紙のいずれか、あるいは組み合わせ	
重量とサイズ	50g以内、凹凸の少ないもので厚さ1cm～1.5cm程度	

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか?

ウェブサイト | フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
<https://www.plan-international.jp/supporter/plankai>

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先:
プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp

プラン・札幌の会

- (仮) プラン 日本事務所40周年
- 日時: 11月18日(土) 13時～16時
 - 会場: かでる2・7 310会議室
札幌市中央区北2条西7丁目
 - 内容: プランの40周年記念行事について
(併設: 持ち寄りミニバザー(収益はプランに寄付))
 - 参加費: 無料 ※事前申込不要
 - 連絡先: プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp

プラン名古屋の会 W f

- ベトナム視察報告会と交流会
- 日時: 11月19日(日) 13時～15時
 - 会場: なごや人権啓発センター
ソレイユプラザなごや12F研修室
名古屋市中区栄1丁目23-13
 - 内容: プラン・インターナショナル理事の安藤良一氏による、プランの活動地域を含むベトナム視察の報告会です。どなたでも参加できます。プラン名古屋の会ホームページ、Facebookでもお知らせの予定です。
 - 参加費: 500円 ※要事前申込
 - 連絡先: 久世
Mail: plan.nagoya.party@gmail.com
電話: 080-6952-3170

※「プラン・ニュース」No.125は、2024年4月上旬にお届け予定です。

領収証明書をお送りします

確定申告にむけ、2024年1月下旬にお届けします

皆さまの寄付金は、「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方法を選択し、確定申告することにより、一部税金の控除を受けることができます。最大約4割が還付されますので、ぜひこの機会にご活用ください。

住所や名前が変わっていたら、早めのご連絡を!

ウェブサイトのお手続きフォームおよび電話(03-5481-6100)、FAX(03-5481-6200)にて、ご変更内容をお知らせください。
2023年12月25日(月)までのご連絡分は、1月下旬発送の領収証明書に反映させていただきます。



ウェブサイトの問合せフォーム

クレジットカード、コンビニ送金の受領日について、ご注意ください

領収証明書には、プランの受領日が1月1日から12月31日までのご寄付を記載いたします。クレジットカード、コンビニ決済/振込によるご寄付の受領日は、決済日/振込日ではなくカード会社・決済代行会社からプランに入金された日付となります。このため、11月下旬以降のクレジットカード、コンビニでのご寄付は、2023年の領収証明書に含まれず翌年2024年の領収証明書に含まれることがあります。

ACジャパンの支援による広告ポスターを 掲示しませんか?



プラン・インターナショナルは昨年引き続き、公益社団法人ACジャパンの支援団体の1つに選ばれ、2023年7月より広告がスタートしています。テーマは「わたしに違う人生があることすら知らなかった」です。

このたび、ACジャパンによるプランの広告ポスターを掲示していただける企業、

学校、団体を募集いたします。

ポスターサイズはB2(51.5×72.8cm)、B3(36.4×51.5cm)の2種類です。ご希望のサイズと枚数(最大5枚まで)、送付先(住所、電話番号、担当者名)をメールでご連絡ください。

Mail: library@plan-international.jp

全国のイトーヨーカドーで今年も募金を実施

株式会社イトーヨーカ堂は、2023年9月1日(金)から3カ月間、全国のイトーヨーカドー・ヨーク全店で「食料危機下の子どもの栄養改善プロジェクト(スーダン)」のための募金を実施しています。スーダンの難民キャンプ、国内避難民キャンプや周辺地域において、プランは子どもや妊娠、授乳中の女性の栄養改善

にむけた援を行っています。集められた募金は栄養治療食の支給や診療所での治療のほか、母親へのカウンセリング、給水スタンドの設置など、衛生環境を改善させる取り組みにあてられます。店頭にお立ち寄りの際にはぜひご協力をお願いいたします。またセブンマイルプログラムWEB募金も同時に行っています。



店内ポスター

メールアドレスのご登録にご協力ください

住所不明・電話不通が増えています

ご寄付やご支援に関する大切なお知らせについて、住所不明や電話番号の変更などにより、お伝えできないケースが増えています。ご本人さまとご連絡が取れない場合、やむなくご支援を停止させて

いただく場合がございます。

住所や電話番号の変更は必ず事務局までお申し出ください。また、大切なお知らせを確実に皆さまにお伝えできるよう、事務局へのメールアドレスの登録にご協力をお願いいたします。ウェブサイ

トでご登録が可能です。

登録情報の変更はこちら



日本事務局創立40周年記念 支援者交流キャンペーン

「#私とプランの物語」

今年、日本のプランは創立40周年を迎え、
ご支援者の皆さまからたくさんコメントをいただきました。
温かいお言葉をありがとうございました。
今回は、これまでプランの活動を支えてくださっている
翻訳ボランティアの方々から、
コメントを寄せていただきましたので、ご紹介いたします。



4月には日本のプラン創立40周年記念イベントを開催

「私はあなたのお手紙に勇気づけられ、いろいろな事を学びました。」これは多くのチャイルドが書いている言葉です。しかし、翻訳ボランティアを通じて学ぶことが出来たのは私のほうです。

初めて私がプランの翻訳ボランティアを始めたのは1994年。翻訳を通して印象に残っているのは、多くのチャイルドが「将来の夢は先生」と言っていたことです。またほとんどのチャイルドが「家事手伝い」をしています。この30年、チャイルドからのお手紙の内容はあまり変わりません。世界には支援が必要な子どもたちが未だにたくさんいるのです。私のやっている事は、砂漠に一滴の水ではないか?と思うこともあります。それでも、スポンサーからのお手紙を楽しみにしているチャイルドがいる限り、翻訳のお手伝を続けたいと思います。

宮崎さま

翻訳ボランティアをさせて頂いてから何年経つかほとんど覚えていませんが、その頃はもちろんワープロもPCもありませんでした。また、わり半紙で修正液（修正テープはまだない時代）は使えなかったために、修正箇所には線を引いていました。チャイルドからの悲しい内容の手紙もありましたが、どの手紙にも子どもたちや家族の感謝の思いが紙面いっぱい詰まっています。翻訳のたびに自分の英語力不足を感じていますが、これからもお役に立てるよう頑張っていこうと思います。

川路さま

さまざまな国際協力団体が存在するなかでも、プランは支援する個人にとって極めて分かりやすいかたちでの支援をしています。なかでも重要なのは、子どもたちとの手紙の交流です。普段手紙を書く習慣などない子どもたちは、スポンサーからの手紙を受け取ると「手紙が来た!」と、近所の人々に見せて回るのです。個人と個人の強い関係が生まれるこの支援方法は、狭い世界に生きる子どもたちの心に希望を与えるものになっています。

青年海外協力隊でなくとも、人間としての尊厳を脅かされている子どもたちを助けることはできる。翻訳ボランティアは自分を捜す旅のひとつです。

東さま

プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中!



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

夕暮れに薪を集める姿が印象的な今回の表紙は、ソマリアの11歳の女の子、ナジャさんです。P.4で紹介したホードさん一家同様、食料と水を求めてトグデル州の国内避難民キャンプで暮らしています。母親と4人の弟や妹たちのために、水汲みや食事の準備などを手伝っていますが、「1日1食がやっとで食べるものがないときもあります。家事をしているとめまいがして座り込んでしまいます」と話します。

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース124号 アンケート

PLAN NEWS

2023 AUTUMN NO.124

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F

TEL : 03-5481-6100 FAX : 03-5481-6200

www.plan-international.jp

